〔切り花パンジー栽培技術の確立〕

# 高性パンジーのパイプハウス地植え切り花栽培（要望課題）

吉岡孝行・田旗裕也・上原恵美*
（江戸川分場・西多摩普セ*）

---

【要　約】高性パンジーのパイプハウス地植え栽培は，１～３月期に 13～18 本/株の切り花が収穫できる。フラワーネットへの誘引や摘花作業を適宜行うことで，茎長，花柄，花径などの大きなパンジーが得られ，切り花は，直売用の新たな花き需要を期待できる。

---

【目　的】

都内の生産者より,高性パンジーのパイプハウス地植え栽培を検討するよう求められた。そこで，８月下旬播種の作型における切り花栽培を試み，その実用性を評価する。

【方　法】

高性パンジー「イエロークイーン，パープルクイーン，しらさぎ，春の粧，プリンセス（以下「イ，パ，し，春，プ」と略）を供試した。2015 年 8 月 25 日，市販培土「TM-2」を充填した 200 穴セルトレイに播種を行い，9 月 17 日 9cm 黒ポリポットへ移植した。９月 30 日，パイプハウス内に畝幅 100cm，通路 60cm，条間 15cm，株間 15cm（ＫＯマルチ 135 ＃25）にフラワーネット（＃20）を設置した。基肥：$N$-$P_2O_5$-$K_2O$ 8-8-8kg/10a を施用して苗を定植した。パイプハウスは無加温で，昼間を開け，夜間を閉めて管理した。11 月４日より液肥（20-20-20）2000 倍液を，１回/週・850L/10ａを施した。切り花長 15cm 以上の収穫物の切り花重，規格別収量などの調査を行った。

【成果の概要】

1.　パイプハウス内の気温は１月が最も寒く，マイナス気温を 14 日記録した。１月 26 日に最低の-3.6℃を記録，１～３月間の平均気温は 8.5℃となった（図１）。茎長を確保させるための摘花を 12 月１日から行うと，摘花数は品種間の差が現れた。「春」10.2 輪，「イ」8.4 輪で多く，「し」6.7 輪で少なかった（図２）。摘花作業は，パンジー栽培経験者で１分間あたり 19.8 輪，未経験者で 15.8 輪であったが(図３)，屈んで行う作業となるため腰痛を伴った。「イ，春」では花柄長が大きく，花が縦に長く，茎径が太くなるなど，パンジー切り花に求められる形質を有していた（図４，５，６）。「プ」は花径が小さいものの，花柄長，茎径とも大きく，紫ピンク系の美しい花が得られた。

２．切り花収穫は，「イ」１月 19 日，「プ，春」１月 27 日，「し」１月 28 日，「パ」１月 29 日から始まり，３月末まで続いた。「イ」の切り花数は株あたり 14 本となり，２Ｌ・Ｌ級が 78.7%を占めた。「パ，し，春」では 18.4 本，15.5 本，13.6 本の切り花が得られ，各規格の割合がほぼ同じであった。「プ」は 17.6 本で，Ｍ級を中心の切り花が得られた（図７・８）。

３．まとめ：高性パンジーのパイプハウス栽培は，１～３月期において 13～18 本/株の切り花が収穫できる。「イ」は２Ｌ・Ｌ級を中心に，また，「パ，し，春」は花柄，茎径大きく，各規格の割合がほぼ同等の切り花が得られる。

４．留意点：フラワーネットへの誘引と摘花作業を適宜行う。

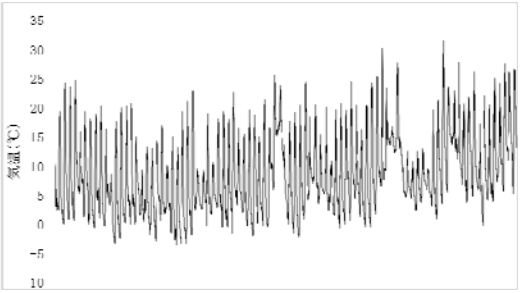


図１　パイプハウス内の気温推移

観測:2016 年 1 月 1 日～3 月 30 日

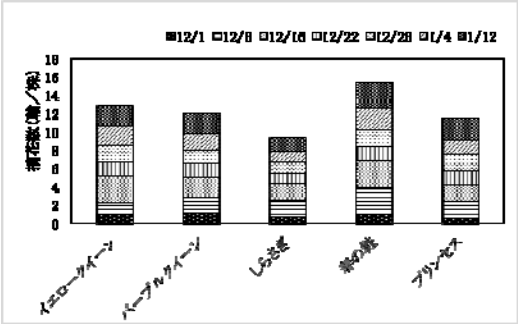


図２　高性パンジーのパイプハウス栽培における摘花数

摘花期間:2015 年 12 月 1 日～2016 年 1 月 12 日

摘花間隔:1回/週

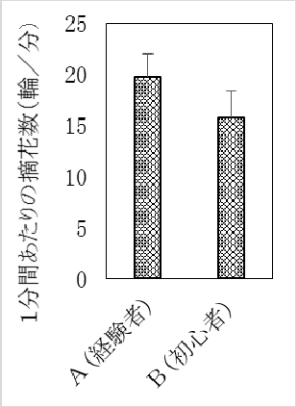


図３　高性パンジーの摘花作業

A，Bとも４名による摘花

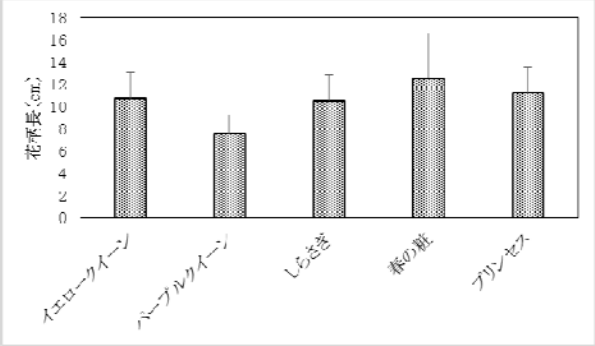


図４　高性パンジーの花柄長

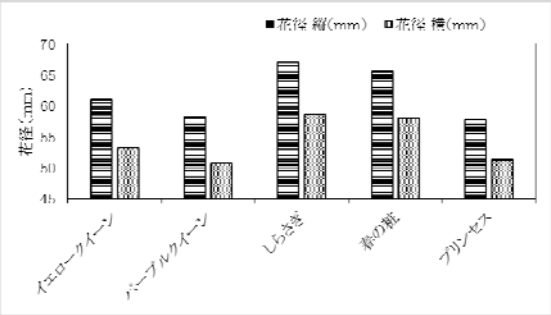


図５　高性パンジーの花径

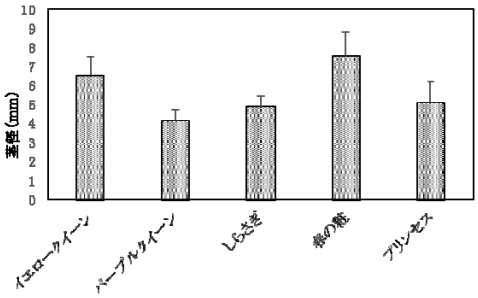


図６　高性パンジーの茎径

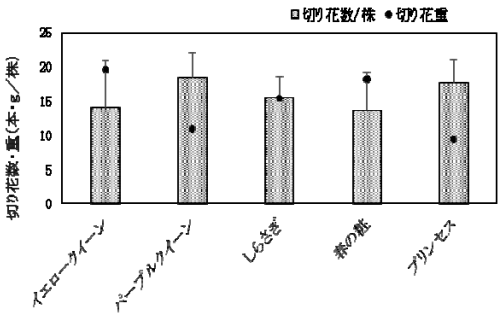


図7　高性パンジー切り花数，切り花重

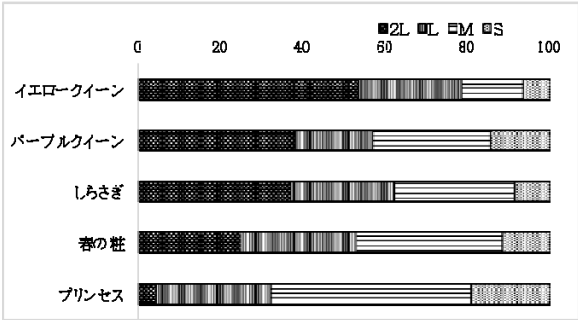


図8　高性パンジー切り花の規格割合

2L:30cm以上　L:　30～25cm　M:25～20cm　S:20～15cm